

[文献]

- 1) 壺井匡浩, 高瀬 圭, 高橋昭喜. MDCTによる虫垂炎の画像診断. 画像診断 2005; 25: 214-23.
- 2) Moore KL, Persaud TVN (山村英樹, 瀬口春道訳). Moore人体発生学. 第5版. 東京: 東京: 医歯薬出版; 1997: p248-56.
- 3) Nichols DM, Li DK. Superior Mesenteric Vein Rotation. Am J Radiol 1983; 141: 707-8
- 4) Snyder WH Jr, Chaffin L. Embryology and pathology of the intestinal tract: presentation of 40 cases of malrotation. Ann Surg 1954; 140(3): 368-79.
- 5) Meeson S, Alvey CM, Golding SJ. Justifying multidetector CT in abdominal sepsis: time for review?. Br J Radiol 2009; 82: 190-7.
- 6) Kim K, Rhee JE, Lee CC et al. Impact of helical computed tomography in clinically evident appendicitis. Emerg Med J 2008; 25: 477-81.
- 7) Neville AM, Paulson EK. MDCT of acute appendicitis: value of coronal reformations. Abdom Imaging 2009; 34: 42-8.
- 8) 岩崎純治, 須崎 真, 安積良紀ほか. 術前診断した腸回転異常症患者における急性虫垂炎の1例. 日臨外会誌 2006; 67: 1042-6.
- 9) 上野真一郎, 相川久幸, 武田宏之ほか. 感染性尿管管嚢胞と誤診した腸回転異常に見られた虫垂膿瘍の1症例. 日小児放線会誌 1991; 7: 84-5.

今月の



隣に伝えたい

新たな言葉と概念

(本用語は発生学, 小児科学領域では頻繁に使われているが成人領域では登場することが少ないので取り上げた)

腸回転異常症とは, 胎生期に臍帯内から腹腔内へ十二指腸から横行結腸中央部に相当する中腸と呼ばれる腸が還納される過程において, 『上腸間膜動脈を軸とした270°の回転と固定』という本来の現象が起こらない病態をいう。どの過程で回転が止まるかにより, 不完全回転型 (incomplete rotation) と, 無回転型 (non-rotation) に分類されることが多い。頻度は出生5,000~7,000に1例, 男女比は2-3:1とされ, 80%は生後1カ月以内に症状が出現するが成人になって診断されることもある。主症状は①ラッド靭帯と呼ばれる線維性膜様物による十二指腸閉塞症状または②腸の固定が不十分なためにおこる中腸軸捻転による絞扼性イレウスで, これらが急性または慢性に発現し得る。半数以上は十二指腸閉塞が原因で生後2日以内に繰り返す胆汁性嘔吐として発症する。中腸軸捻転では腹痛・下血・ショックなどで発症する。画像上は腹部単純X線における double-bubble sign が十二指腸閉塞に特徴的で, 腹部CTにおける whirl sign や消化管透視における corkscrew sign などは中腸軸捻転において特徴的に認められる。治療はしばしば緊急手術を要し, ラッド手術がその中心である。ラッド手術は①中腸軸捻転の解除, ②ラッド靭帯の切離, ③狭小化した腸間膜根部の開大, ④小腸を右に大腸を左に置く, ⑤虫垂切除から成り, 最近では腹腔鏡下手術も行われてきている。中腸軸捻転では, 罹患腸管の壊死が強ければ腸管切除を要し, 小腸大量切除例では術後短腸症候群をきたす。切除範囲の術中判断が困難な場合はセカンドルック手術を考慮する。

〈関連学会〉日本小児外科学会, 日本外科学会, 日本消化器外科学会

〈関連用語〉

・中腸 Midgut, ・ラッド靭帯 Ladd bands, ・ラッド手術 Ladd procedure

(編集委員 清水) 本文832pに記載